

南中だより

平成29年度

第11号

伊丹市立南中学校



平成29年度伊丹市学習到達度及び全国学力・学習状況調査結果速報報告

3年生対象に、平成29年4月18日（火）に行われた「全国学力・学習状況調査」及び4月21日（金）に行われた「伊丹市学習到達度調査」について、本校の結果等をお知らせいたします。なお、この調査で測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一つの側面です。

1. 生徒に対する調査

（1）学力に関する調査

＜全国学力・学習状況調査＞

〔国語A・数学A〕※それぞれ45分

○身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など〔主として「知識」に関する問題〕を中心とした出題

〔国語B・数学B〕※それぞれ45分

○知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容〔主として「活用」に関する問題〕を中心とした出題

＜伊丹市学習到達度調査＞

〔社会・理科・英語〕基礎・基本問題が中心で、目標値を定めている。※それぞれ45分

（2）学習状況に関する調査（生徒質問紙）45分

（20分程度の分量）

○中学校第3学年の生徒対象の、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査。



2. 調査結果について

学力に関する調査結果について

全国学力調査の国語A、B、数学A、Bに関して、本校の正答率は、兵庫県・全国の平均をすべて上回っていました。また、学習到達度調査でも、3教科とも目標値を上回っていました。ただ、4月の段階であるため、入試に向けてそれぞれの教科に課題（弱み）があることを各教科の先生方に分析してもらいましたので、今後の学習に役立ててください。



【国語】

言葉の意味を考える習慣をつけ、自由回答で自分の意見や感想を書くところに活用するための語彙を増やす必要がある。そして、いろいろな分野の文章を読む機会を増やし、短時間で大枠の意味を把握できる練習をすること。

【数学】

文章で説明する問題や、自分の考えを書く問題が苦手。関数の意味、作図の意味、平行線以外の錯角、分布の範囲の問題では、意味は理解しているが、勘違いをして解答している傾向があった。授業の中で根本的な理解を深める必要がある。

【社会】

社会的事象の知識理解は目標値を上回っていたが、観察、資料活用の技術が苦手である。記述式問題への求められる解答や自分の考えを文章でまとめる力をつけることが課題。

【理科】

記述式の出題形式のところが低い。科学的に物事をとらえ、説明できる力が求められている。思考表現の基礎となる、知識理解をしっかりと定着させなければならない。

【英語】

条件英作文の正答率が低かったため、普段から正確に英作文が書けるよう意識しながら毎日の反復練習を行う。読むこと、書くことの正答率は前年度を上回ったため、Readingから自己表現へ結びつけられるよう、さらに学習を深めていく必要がある。

全国学力	国語A	国語B	数学A	数学B
本校	80	78	72	52
全国	77.4	72.2	64.6	48.1
兵庫県	78	72	68	50

到達度	社会	理科	英語
本校	63.5	52.1	61.6
目標値	49.4	46.7	46.5



学習状況に関する調査結果について（伊丹市全体）

- ① 休日学習の時間が2時間未満の生徒が61%、平日の学習時間が2時間未満の生徒が68%でした。家庭学習の時間が、全国や兵庫県の平均よりも少ないです。
 - ② 平日、授業以外で読書を30分以上している生徒の割合は、23%で、家庭学習の時間同様、全国や兵庫県の平均よりも少ないです。
 - ③ 市内全体の状況を見ると、生徒の学習環境や生活の諸側面等と学力との相関関係がみられます。学校における教育条件の整備状況等と学力との相関関係については、現在本校で分析中です。詳細につきまして、分析終了後南中だよりで報告いたします。
- ※ 家庭学習は、学年プラス1時間。読書の時間は30分以上。が、目標値です。